

会 議 録

会 議 名	平成22年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	文化推進係 はけの森美術館		
開 催 日 時	平成22年10月8日（金）午後6時10分から午後7時50分		
開 催 場 所	前原暫定集会施設 A会議室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 宮村令子副会長 淀井彩子委員 千村裕子委員 鈴木茂哉委員		
欠 席 委 員	豊岡弘敏委員		
事 務 局 員	薩摩雅登学芸顧問 神津瑛子学芸員 荒木和学芸員 吉川まほ ろ主査 中嶋登再任用職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 開催事業の結果について</p> <p>(2) 事業等の予定について</p> <p>(3) 会議録について</p> <p>(4) 環境整備について</p> <p>(5) その他</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 次回運営協議会日程について</p> <p>(2) その他</p> <p>3 審議事項</p> <p>(1) その他</p>		

鉄矢会長 平成22年度第3回小金井市立はげの森美術館運営協議会を開催いたします。

まず、議事進行を修正させていただきます。お手元にある次第の報告事項(4)を「その他」から「環境整備について」としてください。そして、(5)を「その他」にしてください。

では、次第に従いまして協議会を始めます。

1 報告事項

(1) 開催事業の結果について

鉄矢会長 学芸員から開催事業の結果について、お願いします。

神津学芸員 10月3日で所蔵展のほうが終わりました、休館しているところがございます。所蔵作品展、今回でⅡですけれども、ワークショップは2回やりました。あまり写真入りの資料とかはないんですけれども、新しい収蔵品のお披露目展ということで、わりと新聞とかいろんなところからお問い合わせがあったりとか、初めて来ましたというお客さんもいらっしゃいました。

あと、無料開放日を、年に2回やっているわけですけれども、百六十名ほど、市内の方々がたくさん見えられました。

補足しますと、ワークショップのほうでホームページに掲載する予定になっています。

(2) 事業等の予定について

鉄矢会長 事業等の予定について、お願いします。

神津学芸員 お手元にお知らせがあると思います。11月9日から、新潟市新津美術館の笹岡了一を紹介します。封筒に展覧会チラシがありますのでご確認ください。中に関連企画①のシンポジウムのご案内も入っておりますので、あわせてごらんください。

②のワークショップ、志茂田景樹さんを講師に迎えていますが、募集開始1日で、定員になりました。午後5時からの展示室での読み聞かせをご案内しています。

笹岡了一展の期間中の途中までなんですけれども、多摩ミュージアム・ネットワークという、町田市国際版画美術館が幹事館となって多摩の美術館ネットワークをつくろうという構想段階のものなんですけれども、これがうちの期間とはちょっとずれているんですが、「たまわーるラリー」というシールラリーをおこなっています。集めると、チケットホルダーがもらえたり、福袋がもらえたりというシールです。ちょうど企画展に当たってよかったなと思っています。

鉄矢会長 質問してよろしいですか。志茂田景樹さんと笹岡了一さんの関係を説明してください。

神津学芸員 笹岡了一との関係はないんですけれども、志茂田さんが小金井三小の卒業生なもので、ああ、こんな人がいるんだなと思って見てみたら、本の読み聞かせを全国回っているということで、物語の絵をかいて

いる笹岡との関係でちょっとおもしろいかなと思って。かなり幅広く全国を回っているみたいで、音楽と一緒に読んだり……。

鉄矢会長 これは記録として、笹岡了一展の関連企画という位置づけですか。

神津学芸員 はい。

荒木学芸員 シンポジウムのほうに関しましては、笹岡了一のアトリエと当館敷地内の中村研一の旧居の建築家が同じということから出発した企画です。

鉄矢会長 わかりました。

神津学芸員 ②のワークショップに関しては、笹岡がキリスト教が、宗教的に、伝説がメインなんですけれども、民話とか、物語がある中から、そこをモチーフにして絵をかいているというところから、反対に絵から物語を想像して、絵に物語をプレゼントしようという主旨です。

鉄矢会長 事業予定について、お願いいたします。

神津学芸員 2010年度市内小学校鑑賞教室という資料をご覧ください。これは、市内小学校、9校の4年生、一部5年生がはけの森美術館鑑賞教室に来るといふプログラム授業になっています。9校のうち1校、前原小は前回の所蔵展に来ているんですが、残り8校が笹岡展、次の、今ご案内しました企画展で来ることになります。

この概要をよく見ていただければわかるんですけれども、11月から1月23日までの期間中に実施予定なんですけど、ほとんどの学校が12月に実施予定になっています。市内全部の小学校の実施は開館以来初めてです。

次のページと別紙1-1と1-2、それが所蔵展で実施しました前原小の1日1校のタイムテーブルになっています。ちょっと想像しづらいかもしれないんですけれども、かなりタイトなスケジュールになっています。

うちの展示室の会場は皆様もご存じだと思うんですけれども、この時間にわーっと30名以上が一気に来て、一気に鑑賞して帰っていくというプログラムになっていまして、前原小の場合は、1日に1クラスと分けて来ることが可能なので、このスケジュールになっているんですけれども、次、笹岡展のときの8校は、1日に全クラスが来る。最後の1校がちょっとまだ調整中なんですけれども、ぐるぐると1クラスずつ1日で1校です。①、②となっているのは鑑賞時間、実際クラスが建物に滞在する時間です。一番最初の緑小が9時5分にエントランスに到着予定。そこから鑑賞の注意など基本的なことを説明して、展示室に入る。まず1階展示室を見て、2階展示室を見て解散という時間になっています。

一番最初のページの概要の後の、問題点として書いていますが、はけの森美術館の職員の勤務体制というのが、9時から5時半が基本になっています。ですから、小学校の鑑賞プログラム、どうしても小学校に合わせなくてはいけないと思いますので、9時スタートのところは今の段階で3校、ほぼ全校が9時半より前にスタートということになるので、それを可能にするためには定時より早く出勤しなくてはいけないという

ことになります。

これは昨年もずっとそうだったんですけども、内部で調整して何とか実施しようとしていたんですが、今回、全校になったのと、ほぼ全部の学校が9時台ということになってしまって、かなり職員の勤務時間外労働が出てきてしまうことになるので、昨年度よりもさらに負担がかかっているということになります。

週4日勤務の交替制で週6日間開館しているので、全実施日を学芸員3人がそろようにするというのはちょっと難しいかなと思います。なぜ学芸員が3人いなきゃいけないのかというのは、一気に30人ぞろぞろ引率するのではなくて、グループ分けしたいということ。そのほうが作品にとってより安全だと考えています。

今後の課題のところにも書かせていただいたんですが、学芸員2名が引率して、残りの学芸員1名が1階展示室をサポートし、あと、図工の担当の教員の先生と、担任の先生も引率できますので、1人、1階と2階と分かれてサポートするということが、それが一番きちんと目が行き届くのかなというふうに考えています。

これまでは勤務時間外労働の分を細切れに振替えて対応しようと、何とかしようとしてきたんですけども、ちょっとほかの仕事に支障が出ます。今後はルールづくりが必要ではないだろうかというふうに話をしています。

ただ、やっと全校来れるようになったというのがすごくうれしいのは確かです。教育普及活動として一番大きいことかなというふうに思っている。一部5年生がいるのは、1回飛んじやった学校があるんですね。それをここらへんで帳尻あわせしようということで、今年4年と5年が来る学校があります。

荒木学芸員

今後も継続していきたい事業ですので、どんどん問題点を改善して、無理のないように継続していきたいなと思っています。

運営をいかにスムーズに行うかということにつきましては、事前に先生方に連絡をして、美術館での鑑賞の3つのルール「走らない、触らない、静かな声で」、多くの美術館でよくマナーとして出ているものを知らせておく。こちらでも到着したときにお話をするけど、その前から説明しておいてくださいねと。そうした事前協力をお願いするというですとか、9月の前原小から始めたんですけども、鑑賞授業の後、アンケートをとって、それをまたフィードバックして新しい展開を先生方と美術館で考えて、話しあっていきたいと思っています。

鉄矢会長

ありがとうございました。

神津学芸員

図工研、図工の先生の研究会で中心になっている先生とメインのやりとりをしています。制作と鑑賞が一体となったプログラムをやってほしいというふうに図工研の先生が多く要望としてありましたので、じゃあ、この展覧会だったらどんな授業内容にしようか。去年のガラス絵ですとガラス絵をやってみようと思うんですけど、今回、物語と絵、想像してみようという方向の話をしているんですけど、あまり密にはやれなかったりして

います。

あと、問題点の一番最後のところに書かせていただいておりますが、9校中、7校が徒歩ではちょっと無理ということで、バスで来るとは思いますけれども、その予算等は全て美術館がうけおっています。

淀井委員

例えば、美術館に来てからの学芸員の方の注意とか、そういうことは必要ですよ。だから、その以前の、小学校側の先生たちの意識というものもきっちりしていただいて、十分にいろんな会場のマナーを知った上で来てもらって、もう一度、再度、美術館側の対応というのにも必要だろうと思いますけれども、これはものすごく大事なチャンスですよ。子どもが美術館に来るとか、絵にふれるというのは。心にふれるんですよ、タッチという意味じゃないんですけど。だから、うまくいくといいですよ。

千村委員

私も今のことに関連して、4年生と5年生って、ギャングエイジというか、ほんとうのやんちゃなときで、美術品の前に動物みたいに元気なのがいるだけで、ちょっとぞっとする面もあるんですけども。

こういっては大変失礼ですけども、先生たちに事前にやっぱりきちんとお話しして引率してもらおうというのが私は大事だと思うんですね。なぜなら、私、毎年、小学校の一、二年の担任の先生たちと、秋探しという、原っぱに3クラス、一、二年を連れて歩くのをやるんですけども、先生のほうが植物にはまってしまっただけで集まらないんですよ。生徒は集まっているのに、先生のほうが、珍しいのがあるからちょっと撮ってからいきますみたいなところがあったりして、ちょっとびっくりすることがあるんですが、このごろ生徒のほうが同じような感じで、集合が悪いと言ったりするんですけども、やっぱりしっかり引率のそういう事をお話ししていただいたほうがいいし、それから、見てしまうと、子供たちは必ず取っ組み合いしたり、騒いだりするので、もう見終わった人は外へ出してもいいんじゃないかなと思うんですけど。

神津学芸員

かなりじっくりと鑑賞していますよ。開館時間が、9時台は貸し切りですけど、それ以外には開館していますので一般のお客様もいるんですけども、すみません、騒がしいんですけどとお伺いするんですけど、一緒に話しながらごらんになったりですか、あと、私が感じるの、先生がどう見ているかという事。引率している先生も一緒になって鑑賞している場合は、児童もすごく真剣にというか、じっくり絵と向き合ってくれています。ただ、あまり先生が見てない場合は、やっぱり騒がしい子もいますけれども、騒がしいなかで鑑賞してる子のほうが多いです。全然見ないという子はほとんどいません。子供の場合は好みもはっきりしているので、あまり好きじゃないなと思ったら、1階はすぐ飽きちゃったり、1階、2階は見ないけど、森はすごく楽しかったと言ったり、ほんとうに様々ですけど、はげの森美術館にまた来たいと言ってくれますので、そんなに……。

千村委員

それだと安心なんですけれども、何かあってしまっただと、もう取り返しがつかないので。

神津学芸員

すごく怖いです。引率していて本当に怖い。15人を1人というの、やっぱり目は行き届かないので、すごく怖いですけれど、楽しいのも確か

なので。

千村委員 四、五年は、エネルギーが一番あって、反応がすごく敏感で、楽しい世代ではありますよね。だけど、私なんかが見ていると、ほんとう怖いというか。

淀井委員 アンケートをとるとおっしゃいましたけど、それは帰ってから向こうの学校で？

神津学芸員 先生方に対してのアンケートなので、どのような授業を前後にしたかとか、今後どのようなことが課題となるかなど。

千村委員 子供に何かメモをとらせるということはないんですか。鉛筆とかは持ち込み禁止？

神津学芸員 いえ、そんなことはないんですけど。

千村委員 何か書くとかいうのは、すごく真剣になりますよね。

神津学芸員 そこまで長く鑑賞時間をとれないことのほうが多いので、その鑑賞教室の際に鉛筆でというのは、多人数ですし、帰ってから授業の一環としてやったものを美術館としては知りたい。

淀井委員 美術館の教育普及活動ですばらしいと思ったんですけども、さっきの問題点の部分で勤務外労働が発生してしまうという部分と、来館が難しい小学校はバスが運行してくる。その辺は大丈夫なんですか。

荒木学芸員 ただ、今までは、私は当時はまだいなかったんですけども、勤務時間の調整については、学芸員同士でやりとりして調整していたものを、もっと館全体の組織としてどういうふうにコントロールするか、調整していくかというルールを、きちんと決めてしまったほうが逆に動きやすいかなと考えています。

淀井委員 こういう事業に予算とかはつけていただけないんですか。

神津学芸員 それは学校の先生方もちょっと心苦しいという、認識は持っていてらしている。

だから、教育委員会等でも負担していったほしい。今は継続できる予算がついているからいいけれど。現実問題として、この鑑賞教室をやっているときというのは、ほかの仕事がほとんどできなくなるので、鑑賞教室が3時ぐらいに終わったその後、学芸で打合せをしておかないと交代で勤務しているので、次に会うのはまた次の鑑賞教室、そこがちょっと一番辛いところです。連絡のやりとりができない。

鈴木委員 時間外勤務の予算については、現状は、この運営協議会も夜間に開かれますから、その分の予算ですとか、収集評価委員会も夜間の開催ですね。そういったものについては措置もされていますが、今回30分早く来る必要があって、来た場合については30分早く帰る、そういうような形でこれまで調整してきた経過はあるところです。

鉄矢会長 とてもいい活動だと思っています。美術館として教育普及部門でやっと全校に広がってできるようになったということはいいいことだと思います。ただ、これを広げようとやればやるほど、もっとおもしろくやればやろうとするほど、やっている人間に負担がかかってくるという、ブレーキがかかるようなつくりはうまくないと思います。美術館の活性化に向かうエネ

ルギーがどこかで削がれているような気がします。残念です。この美術館が教育普及に強い小金井らしい美術館を目指しているところがブレーキがかかっているような気がするのがちょっと残念です。ぜひ教育委員会の力もかりて、バスの費用とか、何かやるべきではないかと私は思います。

薩摩学芸顧問　この事業は、多分今年が正念場になると思うんですけども、やはりこれは続けていくべきものだと思います。去年は浜松から借りてきた作品でやったんですけども、驚いていました。これは偶然もあると思います。やはり市の規模がありますので、例えば横浜市とか札幌市でもってこんなことができるわけはずがないわけで、市の規模、それから、この美術館が町の中心にあるとかいういろいろな偶然的な条件があるにせよ、今後、小学校4年生が全校から来るというのは、全国的に探しても、そういうふうにシステムティックなモデルのところは多分ないと思いますので、ちゃんと継続していけば全国的にも注目されてくるものだし、ですから、これは今年はずっとつらいかもしれないけども、頑張っって何とか継続させていこうと思います。

ほんとうは学校的に考えなきゃならないことは幾つもあるんですけども、テクニカルなことをぜひとも伺いたいんですが、30分早く来たから30分早く帰れるとか、それは日を超えて調整していいんですか。要するに、今日は30分早く来たから明日30分おくらせて来るとか、そういう調整は可能なんですか。

私の大学では、非常勤に関しては、非常勤は時間で雇っている形になるので、我々も極めて厳しく時間を守っているんです。ですから、朝早い仕事は、もう常勤が出勤する。夜遅い仕事は常勤がやると。基本的に非常勤はきちっと時間を守って、そして、やむを得ず夜8時となってしまったら、休日、あるいはどこかでもって休みをとる。やっぱりそれは時間でとって、雇っている人に対しては、それはきちっと守ってあげなければいけないことだと思います。

それから、例えば、このことは、今すぐ結論が出ることじゃないんですが、現実にこの美術館は、月曜、火曜を休館にすることはできないんですか。今みたいな、4日勤務のローテーションでやっている場合に、4日勤務の人たちで6日あけるから大変なので、4日勤務で5日あければローテーションははるかに楽になります。そういうことは、どっかで決めればできることなのか。

つまり、美術館が月曜日休館ということは、別に法律で決まっていることでも何でもないので、ただ何となくみんなそうしてるというだけのことなんです。だから、もしも、ここの人だったら4日勤務の学芸事務でもってローテーションを組んでいただければ、それを5日のローテーションにすればはるかに楽になるんです。つまり、水木金土の人と水木金日の人がいるわけですから。その辺も、もしも、この状況がまだしばらくは続くというのであれば、週6日は開館、週1日閉館というのは、そんなことは多分どこにも法律で決まってないはずなので、もともと市役所自体は、もちろん役所ですから、いろいろなサービス事業はあるにせよ、基本

的には常勤の方々は週5日勤務なんですから、週4日ローテーションの非常勤のことも、基本的に役所と同じように5日開館ということが、私はできると思うんです。条例上、どうなんですか。

鉄矢会長 条例上、週6日開館となっているのですか

薩摩学芸顧問 でも、そうしたら月火水が何時以降はもう早じまいとか、遅始まりとか。

鉄矢会長 商店街は水曜日を休みにしていましたか。

薩摩学芸顧問 水曜が多いですね。少しやっばり時間を考えていくべきことだと思います。

鉄矢会長 そうですね。今もかかわる人がパンクしてる様子がずっと続いていますから。その状況をやっぱり改善しないことには。

薩摩学芸顧問 提言では、基本的に週2日の休館日を設けると出ているんです。

事務局(中嶋) 美術館条例により、休館日は、次のとおりとなっています。市長が特に必要があると認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館日を定めることができることあり、第1項で、「月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律に規定する休日にあたるときは、その日の直後の休日以外の日とする。」第2項で、「1月1日から同月3日まで、」第3項で、「12月29日から同月31日まで、」と休館日は定められていますから、それ以外の日は開館日になります。

薩摩学芸顧問 市長が特に必要であると認めたときは、これを変更し、または臨時に休館日を定めることができるということを出ているんです。

鉄矢会長 そういう提言をうちから出せばいいということですね。では、うちはまず議論しないとイケないですね。

薩摩学芸顧問 今すぐ結論が出るとは思いません。

鉄矢会長 今、せつかくですから、薩摩先生からお話がありました2日休館ということにご意見をください。

淀井委員 学芸員の雇用体制とか人数とか、そういうものが今後、全員が常勤になるとか、人数が増えるとか、そういうふうになったときは、また週6日開館ということにするとしても、現在の状況ではちょっと無理が多いので、今のお話を聞いていて、2日休んでもいいのではないかなと思うんですが、私は。そういう考えがあったかなと思いました。

鈴木委員 今、現状6日開館していて、これを仮に週5日とすると、やはり市民の方の鑑賞の機会が現行よりも少なくなるわけです。私は6日から5日という話にはならないと個人的には思います。

薩摩学芸顧問 そういつてしまえばキリがないですけども、今後そういうような予算なり、いろいろある中で、それ以上のことを求めても仕方ないと思うんですよ。できる範囲で充実させていくというのが、当面の目標というか、目指すところになっていくのではないかなと思います。

鉄矢会長 教育普及活動の日の朝、学芸員があけないと話にならないでしょうしね。スタートのところがたいせつですね。

荒木学芸員 当館の場合は、外部の施設管理の人が入っているわけではないので、我々で開館前に鍵を開けることになります。

鉄矢会長 学校に合わせるというのは、学校にも歩み寄ってもらうというのも1つ

ですよね。

神津学芸員 そうすると鑑賞時間が短くなります。

鉄矢会長 午前中だけで終わりたいというところは終われないんですね。難しい問題です。情報を1つ、学芸大学は美術科があって、こういった美術、図工の鑑賞などにもかかわっている学生がいるので、1つは学生ボランティアがもっと張りつくという可能性はあるのかなと思います。張りつかせ方にしても、美術館が学生ボランティアを呼ぶのか、それとも学校が学生ボランティアを呼んで連れてくる段階から、くっついてくるという方法もあります。多分、学生ボランティアを教育委員会経由で出し、ボランティアの保険も働く仕組みになっていると記憶しています。そうすると、安全管理の先生たちのストレスが少なくなれば変わるのかもしれないですね。そんなこともアイデアの1つかなと思っています。

バスの運行費用ですが、今、美術館が持っているというのは、美術館の予算からでなく、市民部からの予算ですか、教育委員会の予算ですか。

鈴木委員 一定の、調整も教育委員会のほうとしたという話は聞いています。

千村委員 あの福祉バスみたいなのは安く使えないんですか。福祉バスは、私たち町内で旅行したりなんかするときにチャーターして。

鉄矢会長 社協のバスですか。

千村委員 はい。

鉄矢会長 今、館長がお話になった教育委員会と話をしているというのは、教育委員会は話をして、市民文化側の負担であるべきものかどうかということですか。

神津学芸員 担当者レベルで話したんですけれども、教育委員会のほうでは、そういう予算はつけられないと。

鉄矢会長 つけられない。市民文化側としては、例えば市民文化なんて、これはすごい種まきとして非常に大きいことだと思うと、多分、小金井市にあるほかの企業さんなんかもそう思えば、冠、鑑賞教室ってできないのかなとか、寄附を募って、1校につき、その小学校のバスの寄附を、移動のバスのものの何とかとるとか、何かそういうふうに市民も美術鑑賞を支えているということが見える化できるといいのかなと思います。見えなくなっている。見えないのに、中で苦労だけしているって、一番もったいない気がする。苦労はしているけれども、ちゃんと見えるようにしておかないともったいないのかなと思います。

千村委員 スポンサーがつくといいですね。ムラコシネジさんとか、商工会さんとか。小金井市商工会さんが、こういうようなものをスポンサードしてくれれば、バスは「小金井市商工会 子供鑑賞教室」、あと「はけのもり美術館」とか、「小金井市ロータリークラブ」とか、何かそういうJCでもいいですし、何かいろいろなところが、ほんとうに子供たちのために頑張ってくれるといいですね。期待なんですけど。

何かないですか。何か……、市議会議員連盟からぼんと出てくるとか。

鉄矢会長 市議会の議員連盟の方からぼんっと出てきてもいいような。そんな大きな額ではないと思うんです。事業の点について、ほかにございますか。美術館事業の評価委員会の話がある。事業経過についての一部として、小金

井市はけの森美術館の入館者数のシートが資料としてついております。

今の事業等の予定については、これでおしまいですので、今年の年度の事業は、一応終わりですか。

荒木学芸員 失礼いたしました。今年度、3月から開館5周年記念展を予定しております。3月6日から5月22日までの予定です。所蔵作品を中心とした中村研一の展覧会ですけれども、5年目の節目の少し特別な内容となります。既に他の美術館への作品借用の交渉を進めていまして、幸いにもほとんどのところから貸し出していただけるとの返事をいただいています。

鉄矢会長 最後のところは、年度またぎで5周年の中村研一展だそうです。では、2番は、これでよろしいですか。

(3) 会議録について

鉄矢会長 では、3番、会議録について。

事務局(中嶋) 7月30日、第2回の会議録、ご出席しご発言をされています委員の方々へは開催通知とともに送付しております。修正箇所等ありましたら、本会議が終わりました後、お渡しください。本日、間に合わなかったという方は今月中にいただければと思います。

(4) 環境整備について

鉄矢会長 4番、環境整備についてお願いいたします。

神津学芸員 さっきの鑑賞教室の話が取っかかりというか、これはちょっと問題だということが出てきた話なのですけれども、例えば先ほど学芸員が開けないとだめですという話を委員の方がされていましたが、開館準備から展示室の清掃から場合によってはエレベーターのご案内まで、何から全部学芸員を含めた職員全員で行っているの、日によって大変さが全然違う。全員来ている日は掃除も全員でやるから10分で済みますし、その後にミーティングができる。お客様へのご案内や職員の休憩もすごく日によって差が出てしまって、それを改善していこうということで、いろいろ時間を決めたりとか、話し合いをするにはしているんですが、施設の管理、どこがどこまで美術館というか、学芸員か、受付の人がやるのかが、少しあいまいになっている。緑地も市民文化課の管轄というのがあまり知られていないのかなと思うのですけれども、美術館とひとくくりのものと考えると掃除や植物の管理等、結構しきれてないと思います。

鉄矢会長 それから、照明器具が、かぎをしめるときに大変困るような暗さのところがあったことを聞いた……。

神津学芸員 はい。言ってしまうと、美術館がすごくぼろぼろになってきておまして、エントランスの外の入り口のところの床のタイルが、もうあちこちとれていたりですとか、あとはそのタイルだけでなく設計自体がちょっとやりづらい、不便になってしまっているところがあって、木を照らす街灯があるのですけれども、かぎをしめるところは街灯がないので、もうこの季節になると真っ暗なんです。なので、いつも携帯のライトで照らしてかぎをしめているのですけれども、そういったところが、これがこうだったら

いいのになという点がたくさん出てきています。そういうことも少しずつまとめていかなければいけないのかなと思って。

鉄矢会長 さっき神津学芸員から話があった緑地の部分、美術館の管理になったということはご存じですか。

淀井委員 どのことですか。

鉄矢会長 後ろの。

淀井委員 今までは違ったということですよ。

鉄矢会長 今まで環境課なんかの公園緑地課かなんかがやってたような気がしていたんですけども、私は。皆さん、ご存じだったわけですよ。

千村委員 全然知らない。

淀井委員 公園緑地。

鉄矢会長 何かけがをされた方もいらっしゃるんですよ、公園のところで。

神津学芸員 怪我は軽かったのですが、お客様が転んで救急車を呼びました。美術館でもよくわからない部分があって、例えば、春、竹の子が出てきますよね、竹林の中で。それをとっちゃいけないと言われているんです。私は働き出してからずっとそう言われていたんです。職員が竹の子を持って帰るのは職権濫用だと言われるので持って帰っちゃいけないと言われているんですが、でも竹の子が石の階段の下から出てきたらとらないとけがをしますよね。だって、盛り上がってきちゃいますから。なので、とってるんですけども、でも、それがいけないと。

鉄矢会長 けがをしたというのはちょっと違うんだけど。

神津学芸員 こういった竹の子がどうのというレベルで整備がしきれていないということですよ。

鉄矢会長 だから、お客さんが転んだという話？

神津学芸員 そうです。じゃあどうしたら良くなるのかわからない。

荒木学芸員 けがは大したことはなかったんですけども、他者への連絡手段が携帯電話しかなかったので救急車を呼ばれたそうです。

鉄矢会長 いいですか。だれに聞けばいいのかわからないですが、今、この緑地の管理は美術館？

事務局(中嶋) 環境政策課から所管換えということで緑地の部分はコミュニティー文化課の所管になりました。それに伴い予算は緑地の維持管理ということで約330数万、内管理委託料が約260万で、高所剪定、緑地内の維持、隣地との配慮等、木の本数も多く、優先順位を決めて措置をしていかなければならないところです。案内板や山門等は竹を多く使っており、竹は朽ちていきますので、管理が追いつかない状況です。ただ、苦情とか安全性につきましては、委託業者とともに速やかに対応するようにしています。

神津学芸員 剪定と、またお掃除は違うのかなというのがありまして、緑地はあまり手を入れてはいけない、保存が第一だというのがあると思うので、そこで委託業者さんが剪定をしているのですが、あまり思いどおりに育たないようです。藤や色々な研一が愛した植物たちを育てる方向の剪定、手入れでは無いのだと思う。それ以外でも、普通にほこりというか、ごみというか、砂とか、季節の落葉などで茶室周りがどんどん荒れ果てていっているんで

す。竹が育ち過ぎないように剪定はしたとしても、普通にお客様が見る、鑑賞する庭になっていない。美術館のアンケートにもうっそうとしていて暗くて怖いとか、書かれてあったりもしました。四季折々の姿がある素晴らしい空間であることは確かですが。

鉄 矢 会 長 庭の剪定のコントロールはどのようにやっているんですか。結局家のオーナーがあそこまでははらってくれとあって、ここは見えるように大きくしておくんだとか、明るくしろとかいう話があって、剪定のコントロールとか、整備のコントロールは委託しているんですか。

事務局(中嶋) 今の点を含めまして、管理委託の中で対応しています。

鉄 矢 会 長 ということは、そういう景観コントロールをするだけか、どなたかを委託しているんですか。

事務局(中嶋) これまで、緑地について対応してきた業者が継続的に入っています。特に枯れ枝等が落ちてくる、園路の整備とか危険個所だとかいうのを対応してもらうように話し合っていてやっています。

鉄 矢 会 長 それは260万ぐらいだから委託でという、その業者がとりあえず入っていると。

事務局(中嶋) はい。

鉄 矢 会 長 そうしたら、入札にして安くしてもらって、もっとコントロールしやすいところに入ってもらおうとか、ありますよね。

事務局(中嶋) 競争入札で、引き続き委託しています。内容的によく緑地をご存じの業者です。よくわからない業者さんですと、難しいところがあるかと思いません。

鉄 矢 会 長 どんなところが難しいのですか。

事務局(中嶋) 高所剪定でも、幹周りの太さにより継続的に年間計画で何本剪定するか、生育の早い竹林の間引き。それと、園内の構造物、山門や案内板等が傷んでいます。限られた予算で優先順位をどうするのか、工作物をやれるところまでは、予算上手が回らない状況です。

鉄 矢 会 長 その優先順位は、美術館の管理だけど、美術館の優先順位を決めるべきなんだろうと私は思うんですけども。

事務局(中嶋) 館長と相談をして、できるだけ安全に配慮し予算の範囲内で対応をとっています。

鉄 矢 会 長 何か聞いていると、森が好きな人が森を残したいって言っていて、一方で、美術館を明るく使いたいという人と、森を訴える人の差があるような気がして。多分ずっとやっている、庭の好きな、大切にしている方だと、まず維持していくことでそんなにストレスないんでしょうけれども、多分、開けた庭にしていくというところに、あの庭の中でどれだけ、それこそ写真展ができるぐらいの、写真を撮りやすいフォトジェニックな庭にどうやっていくかというのは、やっぱり木の剪定のことじゃなくて、見た目の部分も入らないと美しくならないんじゃないでしょうか。中嶋さんに言うことじゃないかもしれませんが。こちらの窓口は文化課ですか。

事務局(中嶋) 事務担当が館長と相談し業者と対応をしています。苦情はいろいろなどころから入ります。先だって安全性から「はけの小路」約80mの四ッ目

垣を補修いたしました。何分にも限られた予算であり、景観のところまでなかなかいけないのが実情です。

千村委員 今年の夏、とても蛍が出たんですよ、はけの小路に。それで、はけの小路の蛍を見に来ると、みんな美術館のほうにもぞろっと来るんですよ。もうあの柵を越えて中を見たいような感じで迫ってきて、あれはだれが入っちゃいけないって言うのかなって私は思ったんですけども。

薩摩学芸顧問 今話を聞いていると美術館の中も、外もなんですが、もう少し清掃の体制強化はできないんですか。清掃の部分が少し甘いような気が。これはここに来てよく思うんですけど、茶室の周りに落葉がたまっているとか。今、清掃は、トイレとどこですか。

事務局(中嶋) 日常清掃は美術館の正面、玄関周り、隣接する道路の清掃、それから室内のトイレ、中庭とか、ごみ出し等をしています。それから、シルバー人材センターに緑地の北門と南門の開閉と園路の清掃をやってもらっています。定期清掃として、年に大体10回ぐらいか、例えば床清掃、壁・天井、ガラス、屋上等の大きな清掃をやるよう予算対応をしています。

薩摩学芸顧問 そうすると、2番の園路清掃というのは、園路というふうに……。

事務局(中嶋) 園路です。

薩摩学芸顧問 その人に指示しているわけですか。できる、茶室までにどちらを。

事務局(中嶋) 茶室周りでなく園路になります。

薩摩学芸顧問 茶室周りは園路に入れてないんですね。

事務局(中嶋) 山門の北門から、南門の石畳や飛び石の園路です。

薩摩学芸顧問 そこだけを掃除してくれという発注になっているわけですね。

事務局(中嶋) これまで、そうです。

薩摩学芸顧問 ですからもう少し、もう少し清掃の体制を強化できないかと。

神津学芸員 特別清掃は年に10回と今ありましたけど、年4回です。美術館内のことに関しては、年4回までになります。

薩摩学芸顧問 定期清掃は年10回、特別清掃は年1回。

神津学芸員 定期清掃が年4回です。大きいフロアをきれいにしたりですとか、全室内にワックスをかけたりとか休館中に4回。

薩摩学芸顧問 4回。

事務局(中嶋) やる箇所とステップ数の組合せで清掃部分をいつやるかは、業者と調整します。

薩摩学芸顧問 箇所のステップ数というのは、すいません、専門用語でわからないんですけども。

事務局(中嶋) 例えば、ガラス清掃はガラスの箇所により年4回とか、床は年4回、壁と天井は箇所により1回から2回、屋上は年2回と箇所により回数は違います。

薩摩学芸顧問 それを箇所？

事務局(中嶋) はい。

薩摩学芸顧問 ステップというのは何？

事務局(中嶋) 清掃箇所の各項目のどれと組合せて、いつ実施するかを調整します。それを年何回でやるのかというのは、開館中はできないので、休館日とか特

別休館のときにやります。

薩摩学芸顧問 わかりました。

神津学芸員 大体、1回に3～4箇所ということですね。ワックスかけて、窓ガラスをふいて、それで大体1回、基本行っている。今回はワックスは前回かけたままで、きちんとかかっているの、次は天井を掃除しましょうとか。

鉄矢会長 ぜひ皆さんも行ったときに、その状況をチェックして、やっぱりこれはこうだよねとか、ここで写真を撮ったらよさそうな写真撮れそうなのになとか言えるほどきれいじゃないとか、いろいろなふうな目で見ていただいて、学芸員や中嶋さんにご意見を言っていていただいていると。まずは。

薩摩学芸顧問 いずれにしても、美術館とかコンサートホールとか、こういう文化施設というのは、清掃というのは非常に大事なんです。例えば、音楽のコンサートがあって、間に休憩がある。休憩が例えば20分、30分ある。そのときにトイレが汚れているというのは、ものすごくお客さんの気分を害するわけです。ですから、コンサートホールの場合には、開館前にばーっと清掃かけて、演奏が終わった時間とまた次の休憩時間の間に、トイレの中をがーっと清掃をかけるわけです。

美術館の場合もそうで、ここは幸いそんなに汚いふうにはなっていませんけれども、やっぱりトイレが汚れているといったら、もううちに来たらすぐ清掃ができる体制にしておく。やはりそういうところというのは、やっぱりかなりきちんとやって、あるいは、朝来て庭の落ち葉があまりにも多いとかというのは、やっぱり文化施設においてはあまりいいことじゃないので、お客さんの気持ちという問題と、それから美術館の場合は作品保護をとという問題も出てきていますので、やはり清掃というのは、ちょっと1回ここで整理かけたほうがいいんじゃないかと思います。

荒木学芸員 2階の使用にもかかわってきます。応接室の利用頻度が格段に上がっているの、2階の清掃というのは外部委託でという可能性も今後話し合っていかなきゃいけないと思います。

鉄矢会長 まず清掃は、もう少し強化したほうがいいと思います。皆さんもそう思いますか。

千村委員 秋の落ち葉なんか、半端じゃないから。

淀井委員 あれを掃く人は、ほんとに大変だと思いますね。

千村委員 それだけ人がいなくて、さっきから大変だと言っているの、やるが多過ぎて、せめて清掃部分だけでも、業者とか上手に工夫して使ったほうがいいと思うんです。

鉄矢会長 協議会として、そう思いますね。

(「はい」の声あり)

鉄矢会長 でも、ボランティアの人とかいないですかね、掃除してくれる。

千村委員 ボランティアとかって、いろいろありますけれども、ワークショップを手伝いますとか、何か創造的なことに関してはボランティアはたくさんいるんですが、毎朝、行って掃除しますというボランティアは、なかなかいないですよ。

神津学芸員 例えば彫刻、皆で学芸員と野外の彫刻作品を清掃するのとかは、ワーク

ショップとして実施しているところがあります。

鉄矢会長 ありがとうございます。環境整備について、ほかに。

荒木学芸員 環境整備、茶室周りの清掃ということにもかかわりますけど、せっかくなのでぜひ放置せずにケアしていきたいのですが。それに関しまして11月のシンポジウムでもご講演いただく建築史の先生に建物を見に来ていただいたんです。その際にお話をいただいて、充分文化財に相当する室の高い建物であると。去年、火事で、放火で焼けてしまったんですけれども、国の重要文化財になった旧住友別邸を手がけた建築家によるものでもあり、この茶室というのは、これからも大事にして、できれば修復をしたほうがいいとアドバイスいただきました。

だからといってすぐに補修ができるわけでもないし、また補修しようとなると、建築基準法に縛られて原形をとどめないような補修をしなくてはいけなくなるかもしれない。それを解決する可能性をもつものとして国の登録有形文化財という制度があります。国の重要文化財でイメージされるような、大事に保護されて立入禁止になるというのではなく、むしろ外観さえ変えなければ、中は改装してもよく、どんどん活用しましょうと。それこそ現在の喫茶棟のように、中でお店をやっているとか、イベントをやってもいい。建物そのものをみんなで大事にしようという制度ですけど、そちらのほうには可能性が、もしかしたらあるのではないかと調べ始めたところですよ。

ただし、大きな変更が加わっているとまた話が違ってくるんですが、まだその辺は、これから調査をして、それこそシンポジウムの準備をきっかけに出てきたことなんですけれども、文化財化、文化財登録の可能性を探っていきたいと思っています。

文化財登録されますと、建物の補修や活用に対する様々な助成金がありますので、そうした面から考えても、文化財登録の可能性を考えたりしているところです。

鉄矢会長 ありがとうございます。ほかに環境整備については、ございますか。ないですか。先ほどの資料8のほうにかかわる話です。業務計画。ちょっとぱらぱらと見ていて。

(5) その他

鉄矢会長 その他でいいんですか、はい。ではその他。

荒木学芸員 では、途中で配付しました「文化遺産オンラインについて」という資料をごらんください。まず、タイトルに「文化遺産オンライン」という、これは全国各地の博物館が所蔵する画像と情報を載せて、いろいろな文化財の状況を調べることができるウェブサイトです。まだ、全国の博物館、美術館を網羅しているというわけではないんですけれども、文化庁が運営しているホームページです。

将来的に資料目録の整備を進め、ホームページなどで公開していこうとしても小金井市のホームページの構造では、それがちょっと難しい。たくさんさんの活動を一度に載せたりとか、データベースを組み込んだりというこ

とができません。そこで、「文化遺産オンライン」を利用しようと考えていました。

それがこの夏に、文化庁から「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究」の実施委託に関する公募というものにおきまして、文化遺産オンラインをもっと活性化させるために、もっとたくさんの美術館に、たくさんの資料を登録してもらおうと、その登録作業を行いやすくするためのソフトウェアをつくった。そのテストをしてもらうための準備費用を出してもらえるとという募集がありまして、夏に応募しましたところ、配付資料の3番、事業Bに幸いなことに採択されました。

今までなかなか写真を撮りたくても、年に十数点という感じで優先順位をつけて撮っていた資料をまとめて撮影したり、それをデジタル化したりということ、そしていろいろな作品リストなども使いやすくする。ばらばらになっていた作品に関するデータを1カ所にまとめて使いやすくする。そういった作業を進めることができ、美術館としての基礎的な部分を固めることができる。それでいて、「文化遺産オンライン」に登録することで、当館の所蔵作品、あるいは、はけの森美術館という存在を広く知ってもらえる機会にもなり得るということで、今後、デジタル化作業で、アルバイトですとかプログラムを書いてもらったりする人をこれから探してお手伝いをしてもらって、本年度中に「文化遺産オンライン」に作品を全部登録して公開する予定になっております。公開しましたら、はけの森美術館のホームページからリンクをはって、そこから作品の何十点か写真を見たりできるようにするつもりです。

鉄矢会長 すばらしいです。

荒木学芸員 そうですね。常勤として美術館や博物館で働く人はまだ少ないんですが、作品の画像や関連するデータをデジタル化して保存していくことについては、非常に注目されていて、関心を持つ学生たちも最近増えています。興味のある学生がいればぜひ手伝ってもらいたいと思いますし、いい経験になると思っています。

鉄矢会長 すばらしいですね。

千村委員 すごく進歩した感じなんですけど。

鉄矢会長 はい。その他何かございますか。

神津学芸員 結構皆さん知らないと思って、ちょっとコピーを持ってきたので少しよろしいですか。アリエッティ、ごらんになった方は、いらっしゃいますか。月刊『MOE』の9月号です。

鉄矢会長 うちにあります。

神津学芸員 あ、ありますか。とてもうれしいです。はけの小路が舞台の一部というか、ロケ地になっているということで、はけの森美術館も載っております。はけの森だけじゃなくて、野川とか小金井全体がすごくロケ地の1つになっているんです。アリエッティを見た方は、ああ、小金井だと思ったと思うんですけども。

鉄矢会長 あそこだという感じのところがいろいろありました。

神津学芸員　　もっと盛り上がってもいいんじゃないかと思いつつ見ているんですが。くわしく載っております、やっていたのはわりと渋い展覧会でしたけれども、これを片手にいらっしゃる若いカップルとか結構いました。ちょっと元気が出る広報でした。ジブリとの連結は全然できていないですけども、小金井のキャラクターのこきんちゃんもジブリですし、それで、もっと何か、はげの森に親しみを感じるような、もっと何かできないかなと思つていたりもします。

鉄矢会長　　あとはございますか。委員の方で報告したいことは。

鈴木委員　　学芸員の新しい職員、大野学芸員は退職したので、今日は来ておりませんが、岩崎という学芸員が新しく入っておりますので、また次回、皆さんにご挨拶したいと思つています。

協議事項

(1) 次回運営協議会日程について

鉄矢会長　　では協議事項で、次回運営協議会の日程について。内容としては来年度事業と計画予定ですか。いつごろがよろしいんでしょうか。次回では予算が決まった状態で運営協議会を開くのがいいのかと思うんですが、それはいかがですか。予算の前からでしょうか。次回は予算が決まっているのと、年度のまとめ、簡単なまとめで。今まで年に4回やるというスケジュールを、運営協議会は、多分そうだったと思うんですけど。

神津学芸員　　年度でいうと3月からの展覧会を控えているので、年度全体の報告はできないんですが……。

鉄矢会長　　はい。それは別として。

神津学芸員　　2月に開催していただけると、5周年展以外の報告と来年度の内容とか、来年度の計画も報告できます。

鉄矢会長　　とりあえず入れておきましょう一応、2月17日。木曜です。

神津学芸員　　2月の15、16、17の3日間、緑中の職場体験があるので、それを含めた報告ができます。

(2) その他

鉄矢会長　　はい、協議事項、その他。私から。すいません、運営協議会は資料がちょっと足りない気がしたんです。事業の経過とか、もう少し欲しいです。口頭だけではやっぱりちょっと記録としては目に残らないのかなと思つています。

それから環境整備についての肝心の部分とかも、ポイントとかを書ける内容であれば、次第に落としてもいいと思つています。協議事項というか意見です。

(2) その他

鉄矢会長　　協議事項のその他、ありますか。

(発言の声なし)

3 審議事項

(1) その他

鉄矢会長 では、審議事項（1）その他。ありますか。

鉄矢会長 以前、2階の話で、収集評価委員会の先生方と、この方々とまじって、1回ぐらい話したほうがいいんじゃないかなという話があった気がするんですけど、それは特に今はありませんか。

鈴木委員 やはり収集評価委員会は、収集評価という1つの役割がありますので合同でという話は難しいのではないかと思います。運協のご意見を尊重すべきだと思います。

鉄矢会長 運協のこの間の意見が出たというところで、2階の整備に関しては進んでいると考えてよろしいかと。それがだからそのままいくとは思ってないんですけど、それは一応……。

事務局（吉川） 先回の運営協議会のご意見をまとめて、学芸員の希望と、今後の改修によって、どれだけはけの森美術館の未来がひらけるかという前向きな話を持って理事者協議に臨みました。今回、きちんとした改修をやっておけば、今後は、日々のメンテナンス費用が少額（ピンポイントのみ）で済み、定期的なメンテナンス以外の突発的な費用の支出が極力抑えられるので長い目で見えていくと財政上は得策ではないかというところで頑張ったんですけども、とても今の財政状況で、一気にそんな金額は（6,000万以上かかるだろうという試算だったので）出せない。どうにか、少しずつで、やれないのかと言われたので、一気にやった方が最終的には安く済むのですが、少しずつで3、4年かかっても5年かかってもいいですから、是非やらせてほしいというお願いをしました。

市長からは、財政状況は厳しいが、ただ、なにがしかは、やらざるを得ないだろうと。かつて財団から、美術館の寄付を受け入れるかどうかの議論になった時点で、いつかは、こういう状況がでてくることが見えていたので、しょうがないかなみたいな、やらざるを得ないなというニュアンスの話はでていました。決して全面的に「やりなさい」ではないけれども、現状は、理解する。しかし一気にこの金額は無理なのでどのようにするのか今後さらに検討をすることということで理事者協議は終了しました。

その後、館長と、建築営繕課長と打ち合わせをして、ともかく財政計画にエントリーすることが重要なので、理事者協議の結果を踏まえると6000万円の計上は無理なので半分くらいで財政計画には臨みましょうということになりました。その後はついた予算内で順番に改修をかけていくしかないのではないかと、現課で協議して優先順位をつけ、管理、改修をしていかなければいけないということになりました。一番優先しなくてはいけないというところは、今、恒温恒湿の空調機の整備をちゃんとやらないと、新潟の美術館、新潟市美術館の二の舞になるんじゃないかという部分です。あとこの間、運協のときに話題になりました多目的室の活用について、寝室と台所の仕切りの壁はとれるのかという問題がありますが、ついた予算でどこまでできるかというところなんですけれども、とにかくできるところからやっっていこうと思っています。それから茶室の修繕のほう

が、先ほど荒木学芸員が話したように、文化財の指定をしてもらって、そこから助成金をとることができる。今回の改築に関しても助成金を取れとすごく言われているんです。ただ、改築に関しての助成金というのは、まずないんです。今すごく探しているんですけど。なので、事業のほうでとにかく助成金を取って、そっちで助成金をとっているから、歳入の一連として改修もというような話をしようとは思っています。それはちょっと裏側のやりくりの話なんですけれども。助成金はチャレンジしていけば、とれるものはとれると思いますので、その辺は前向きにやっっていこうかなと思っています。

財政的には、歳入の裏づけがないと予算はつきませんから。これだけ半分は助成金をもらえるんだからというような話は、財政とのやりとりのなかでしていこうと思っています。最終的には財政側が判断することなので、こちら側としてもできる限りのことはしますけれども。美術館にとっても市民にとっても良い改修ができて、はけの森の未来がひらければ良いと私的には思っています。

薩摩学芸顧問 ある程度、見込みがつけば、あらゆる予定が立てられますので、それはやっぱりつかないのが一番困ったので、場合によっては来年、ほんとに1年休館して全部という可能性だってあり得るわけで、そういう方向はないということがわかれば、また来年度考えられますので、状況にあわせていきたいというふうに考えております。

鈴木委員 今、学芸顧問からお話がありましたが、理事者には運協や現場からのご意見を一定理解はしていただいたというふうには感じています。ただ、一度に全てはできないので、何年かかけてやらざるを得ないということで、私も理解をしています。来年度きちんと予算の範囲で、美術館としての機能を高められるよう、調整してやっていきたいと考えています。

鉄矢会長 では、これで平成22年度第3回小金井市はけの森美術館運営協議会を閉会します。

— 了 —